

京葉コンビナートの真中に闘う交流・共闘の輪が広がる



80. 8. 4
No. 499
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二五八〇九(公衆)四三三(22)七二〇七

『千葉・市原地区共闘』交流会成功！

「八〇年を闘う千葉・市原地区共闘会議」は、七月三十一日、動力車会館において第四回交流会を開催しました。

最初に、あの七八年三月のシエト燃料輸送の強行阻止に立ち上った佐倉支部と一四〇〇組合員・支援の闘い「三スト」の記録映画が上映され、全員が新たな感動と決意を固めました。続いて労働千葉組総部長布施氏の講演に入り、「マル生・船橋闘争・労働革マルとの闘い等々の中から労働千葉の戦術性が倍われ、三里塚・反合同争の正義性の中に今日の成果がはっきり確認できる」と自らの経験にふまえた教訓等が出されました。

講演の後、各参加者より、地域・職場での闘いの報告が出され、活発な討論が長時間にわたってなされ、三里塚、ジェット燃料貨車輸送、パイプライン、反合同争、学習会交流会等々を通じて、当面「563」にむけ労働千葉と地域労働市民との共闘強化、組織体制の抜本的強化を確認し、成功裡に終了しました。

千葉乾・蘇我・木更津の三支部 青年部が共闘の軸になる

「八〇年を闘う千葉・市原地区共闘会議」は、京葉コンビナートの集中する千葉市・市原市・木更津市で働く労働者、学生、市民が日常の闘いを通じて交流を深める中で本年二月に結成され、労働千葉の三支部「千葉運動区、蘇我、木更津の青年部」も参加し活動しているものです。

今、支配階級は完全に行きづまり侵略と反動の攻撃を強め、軍事大国化を押し進め、労働者に対してはインフレ、低賃金、増税、労働強化、首切りなど攻撃を強めている。労働者の不満と闘いへのエネルギーは高まるばかりなのに、腐敗を深め右傾化、翼賛化を深める今日の既成労働運動指導部——この様な現状を「労働千葉と共に」を合言葉に、なんとしても職場生産点の労働者の闘いで一歩一歩つくり変えていこうという決意です。

「共闘会議ニュース」に載せられたあるコンビナート労働者の「訴え」があります。



私の働いている会社では不況を口実に労働者に対し血も涙もない配転攻撃をかけた。脅迫、肩たたき、それが通用しないと家庭まで押しかけ家族を脅かす。

一、三〇〇名居た職場の仲間が、今は六〇〇名を割ったことを見ても、いかにこの配転・首切り合理化が凄まじいかわかる。私は配転を拒否したら、解雇の通告を一方的にうけた。この不当解雇に対し、私の労働組合は闘うどころか会社の手先となつて、逆に私の組合員籍のハク奪という全く許せない反労働者的行為を行った。現在アルバイトをしながら、会社と労働者に対する怒りの反撃として裁判闘争を闘っている。

職場の慣行と権利を守るべき労働組合が企業の先兵となり労働者の首を切る、こうした労働運動を断固拒否し、真に闘う労働運動を構築するために闘う——

三里塚・労働千葉を軸柱に、日本の労働運動をつくりかえよう！

八〇年代は、有無を言わさぬ政治抑圧・搾取・侵略軍事大国化が襲いかかり、労働者が「闘うことなしには生きていくことのできない」時代となることは確実です。あらゆる暴虐に抗し15年間不屈に闘う三里塚農民の闘いに学び連帯し、日本労働運動再生の要石として歴史的決起を開始した労働千葉のこの闘いを、必ず勝利させるためガンバル決意です。